

— 目 次 —

<特集>

— 座談会 —

知事、若い世代と語る 8

★知事を囲む意見交換会の記録

□ ユース・ブレーション 入選レポートから

- 原野開拓の酪農モデルケースを・前崎正隆...26
- 「あすなろう農場」物語・佐藤一誠...28
- 流通指導の研究機関を・後藤純夫...29
- 後継者対策として「恩給林」を・綾部民生...30
- 特殊観光県へ・恒松敏子...31
- 火山灰土を利用した阿蘇紬などを・小形賢治...32
- 土屋歳明・池田茂次・上田勝利・中西恵吾...16

□ 熊本の百年におもろ 33

- 布田保之助おうに学ぶ。心うたれる人間の歴史。すばらしい日本人になろう。この記念樹をたいせつに

くまもとの明治百年（最終回）

無敵師団・女性解放？ 山口白陽 36

★ここに人あり★

擬餌と潜航板・吉川智恵人 25

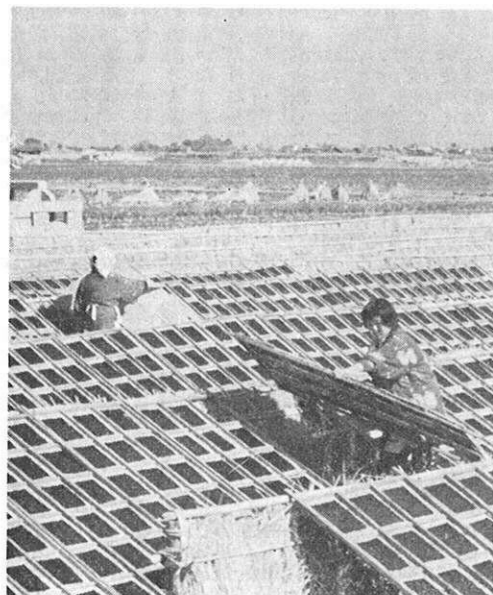
□随想

樋口欣一・若柳喜千信・舟越光好 6.7

★グラビヤページ

風雪に耐えて・新熊本空港、明治百年式典ほか

★センターカラー 天水町のみかん山 ★表紙 冬日



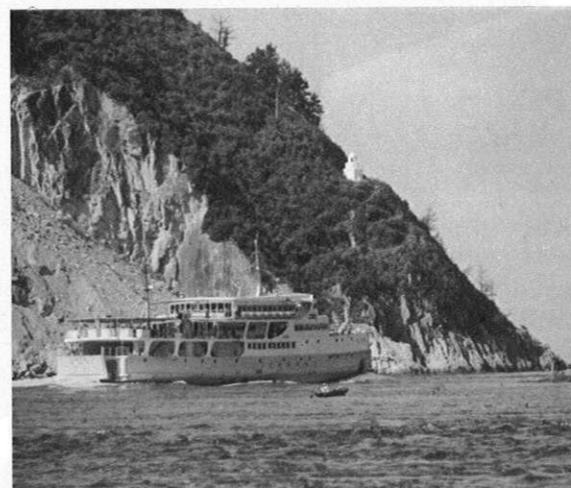
— のり乾し作業風景 —



上・航行の安全を祈って今夜も照らし続けて……



上・月に1回、航路標識事務所の職員が投光器の手入れにやってくる。



上・三角の瀬戸を行き交う船のスタイルも時代の流れによって変ってきた。

あすも照らし続ける

名称、三角灯台(天草郡大矢野町大字岩谷) 北緯32度37分18秒、東経130度26分47.5秒。白色上部円形、下部四角形コンクリートづくり。五等明暗白光、明5秒、暗2秒。光力1500カンデラ、光達距離17.5海里。明治23年3月1日設置。LCII型自動管制灯器(電球24ボルト300ワット。)

× ×

熊本県にたくさんある灯台のなかで最も古いものが「三角灯台」である。もともと灯台は航行船舶に対して、陸地の遠近、危険個所などを指示したり、入港船舶に対して港口の位置を教えて、船舶航行の安全をはかるためにつくられたもので、日本では海上保安庁の所管となっている。

灯台は明滅する。方向を指示する。きのうもそうであった。そしてあしたもそうである。私たちの人生航路には、なにを目標にすればよいのであろう。



上・観光フェリーの甲板から白い小さな灯台が……